

(1) 平成元年 8月10日

学 友 会

学 友 会 会 報

第8号

発行 中日本自動車短期大学学友会事務局
〒505 岐阜県加茂郡坂祝町深重1301 ☎<0574> 26-7121



新実習棟完成!!

会報発刊にあたって



中日本自動車短期大学
学友会会長

本 田 紳 基

本年も会報を発刊する時期となりました。会員のみならず方におかれましては、残量厳しき折り増々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

さて昭和六十三年度の事業計画も順調に実施されております。

母校においては、日本で最初に開設された車体整備コースも確実に軌道に乗ると共に時代のニーズにマッチした最先端技術者養成の電子機械コースも順調だと聞いて大変喜ばしく思います。また入学志願者数においても、社会の流れと共に昨年も増して、増加の傾向にあり、競争倍率も非常に高く、人力、学力共優秀な人材が確保され、現在我母校が社会における重要な地位を著々と築きつつあることは大変喜ばしいかぎりであると共にOBの励みとなり誇りにも感じられる次第であります。

なお母校の母体である神野学園も、より社会のニーズに応えるため、名古屋の中心地栄地区に開学した、従来にはないまったく新しい国際的なカリッジである国際情報パシフィック専門学校も軌道にのりつつあり学園幹部の方々の教育における探求の姿がひしひしと感じられる次第です。

母校も設立二十周年を節目として、より大きく飛躍されることを望んで止みません。

昨年の会報にも述べましたように、ここ当面の学友会の重要事業は、支部の充実にあるわけですが、各支部設立準備委員が多忙をきわまり、なかなか思うようには、支部設立がはかどってはいない状況です。本年度は目標貫徹をするため、長野松本支部並びに愛知(尾張・三河)の両支部設立については完遂する所存であります。

また本年度は、前記二地区の設立と共に、三重県・岐阜(西濃)・静岡・兵庫・長野(長野地区)・北陸(二支部)・山梨並びに九州・四国地区においても学友会組織をあげ、支部設立準備委員会の発足を支援・協力していくつもりでありますので関係諸兄の一層の奮起並びにご協力をよろしくお願い致します。

なおこれまでに多数の海外留学生が卒業され、各々自国の産業の発展のために活躍されておられることと思います。そういった会員の団結及び励ましの意味も込めまして、多数の海外支部の設立を進めねばと考へ、現在模索中でありますので、ご協力をお願いできる方がいらっしゃれば幸いと存ん

じます。

前述のように母校も開学二十周年をすぎ、増々発展されているわけですが、O・B諸兄の方々の中には、現在社会的にも認められた地位に就かれた方々も多数あるかと思えます。どうか今後共、母校の発展のため後輩の就職並びに入学希望者の推薦等、母校との結びつきを一層強固なものとして、母校共々増々の繁栄を念願致します。

最後になりましたが、今回の会報発刊にあたり、多大なるご協力ご援助を賜りました大学関係者及びO・B諸兄、特に学内在籍のO・B諸兄に対して心より厚く御礼申し上げます。

学長の挨拶



中日本自動車短期大学
学 長

平 野 峻 嗣

昨年十一月、実習棟(五号館)の完成をもちまして、教育施設の拡充、整備を目的とした一連の二

十周年事業も終了いたしました。これもひとえに学友会の皆様の本学に対する暖いご支援、ご助力の

賜物と厚くお礼申し上げます。本年度の入学生募集に際しましては、本学開学以来、史上第二位となる、一一八一名という応募者があり、十八才人口急増期の中にあるとはいえ、ここ数年本学が推進しております、教育内容の充実、環境整備、教育の国際化等の成果の表れであると言えます。

しかしながら十八才人口の急減期が目前に迫っており、益々前述の推進を計り、これに対応していかなければなりません。当然のことながら、基本的には、社会的評価の高い学生を育成することが、第一であります。それは、自動車に関する「知識」「技術」「心」の三位一体のバランスのとれた、自動車エンジニアを育成することです。現在、多様化する社会において、人間性が失われつつあります。その中で、本学のような、工業系短期大学においては、技術教育に片寄りがちとなります。それゆえに、人間教育に主眼を置いた「心」を育み、幅広い視野のもとに適切な判断のできる技術者を育成することが必要であります。そのためには、教職員が自己の資質向上に取り組むことが大切であります。私としては、そのような活

力ある学園づくりを目指してまいります。

今後共、学友会の皆様方にもあたたかく見守り頂き、時にはご意見、ご忠告をして下さいますようお願い申し上げます、私のご挨拶とさせていただきます。

本学と中国との

交流について

(その1)

事務局長

杉浦 禎宣

マレーシアからの「ルック・イースト・ポリシー」に拠る研修生の受け入れは、日・マ両国政府間協定に拠る「国際交流活動」に本学が協力する（人材育成のために研修の場を提供する。）といったものであるが、中国の場合はちょっと事情が異なる。

本学と中国との交流は、純粋な民間外交で、本学と中国汽車工業公司との間に交わされた「協定書」に基づいて展開されている自主的な交流である。

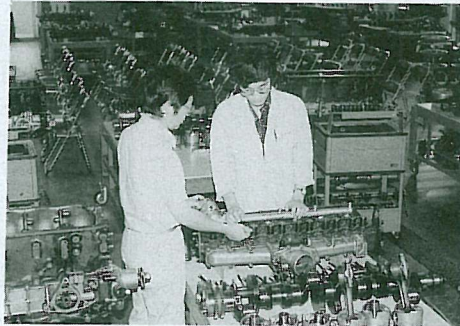
一 出合い

一九八四年九月、当時自動車技術会（S.A.E）関係の学内世話人

をしていた協助教授のもとに通の照会状が舞い込んだ。

アメリカの自動車事情を視察した帰路の中国自動車学界の面々の「日本の自動車工業技術教育」について見学したいという要望であるが、中日本自動車短期大学にこれを受け入れる用意は有るかというS.A.Eからの照会である。

視察団の名称は「中国汽車工業会社教育考察団」。



「汽車」が自動車を意味し、「考察団」が「視察団」を指す中国語であることは承知していたが、何とも訳の分からなかったのが「工業会社教育」という件である。

このことは、のちに中国側からの招待で大須賀教授と共に当時の

学長中村清先生に随伴し、現地を訪問してやっと理解することができた。

恥かしながら当時の中国に対する認識の度合はその程度だったのである。

社会体制の異なる中国での自動車に関する分野は、生産・流通をはじめ、自動車系の学科を設置している高等教育機関の学長・校長人事に至るまで、全て国家が関与しており、自動車学科を設置している高等教育機関は全て、多かれ少かれ、政府機関「中国汽車工業公司」の影響下に置かれていた。

武漢工学院、湖北汽車工業学院、吉林工業大学、長春職工大学・同高等工業专科学校、清華大学、上海交通大学、西安交通大学等々の約二五校である。

「汽車工業会社教育考察団」というのは、「公司」を「会社」と翻訳したことから分かり難かった訳で、のちに「自動車工業に関する連合体の教育視察団」ということが判った。

「公司」も今日では「連合会」と改称されているので、多少は分り易くなっている。

従って、我々に対する招請状もこの「中汽公司」から発行された

ものである。

さて、件の「考察団」であるが
団長・武漢工学院々長（故人）

副団長・中汽公司教育培訓部々長

盛麗華

团员・湖北汽車工業学院副院長
季峻

・武漢工学院副教授
蔣維銘

・湖北汽車工業学院講師
伍德榮

日本語通訳・武漢工学院講師
李永華

英語通訳・武漢工学院講師
黄勝興

の七名からなる皆さんで構成されており、本学側も受け入れを承諾する以上は誠意に満ちた「熱烈歓迎」をしようとの方針のもとに、五星紅旗を掲げ、全学挙げての最大級の歓迎をすることになった。

学内案内、管理運営部会、教学部会、屋舎会、歓迎晩餐会等、十月四日から僅か二日間の日程だったが、相互の名譽を損なうことがないよう細部まで気配りを利かし遠来の賓客としてもてなした。

本学と中国との国際交流は、この「出合い」を契機として始まったのである。

実習棟完成にあたって

実習室次長 大脇 澄男

一九八八年十一月十九日、新実習棟の竣工式が行なわれた。総工費九億円余りを担うこの大事業である。旧実習棟しか知らないO・B諸兄が来学されれば間違いなく、その変貌振りに驚かれるでしょう。

工事は古い建物を壊しながら空いたところに新しい建物をつくるといった具合に進められた。勿論実習教育を停滞させる訳にはいかない、廃屋などを仮実習棟にしなから、あたかも魔方阵を解くようにして進められた。そんな訳で工事期間中は先生も学生も大変であった。

思えば二十二年前の春、第一期生として当地に赴き、卒業後も母校に止どまり、今年でちょうど二十二年になる。この間母校の変遷を内部から見続けてきたことなる。二十二年前の実習場のことを想うと、新しい実習場が夢のようにある。

新しい実習棟は東西に伸びる形で、南から北に向って四、五、六、七号棟が並列になっている。これによって遮音、通風、採光が計られ快適な実習ができる。

五号棟は実習教育の本丸としての機能を持ち、同時に二年生の教育が行なわれる。

各棟は鳥に見立てられ、正面玄関を中心に右翼、左翼とし、より高く、より遠くへ、卒業生も、母校の名声も飛んでいくように、との願いが込められている。

母校が今後どのような道歩ん



で行くのかは我々O・Bにとって大関心事である。議論の余地は多分にあるが、学内O・Bの一人として、実技教育を主体とした実際の、実践的な教育機関として成熟していくことを願っている。同時に地域性、国際性に加えて他校との差別化をどう付けるかが、母校の将来を開く鍵だと思ふ。

編集委員から、「新実習棟完成にあたって」という題を与えられたが、書きすすむうちに話がだいぶ横道にそれた。とにかく「百聞は一見にしかず。」O・B諸兄の来訪を乞い願う。

認定試験の合格率

技術研修室

自動車整備士試験に認定試験制度が取り入れられたのは昭和四十八年度からで本学としては、第六期生からのことだ。

大学として、その年々最善の状態でも対応してきたつもりですが手ばなしで喜べる年はなかったようです。過去の合格率が最も高かった年を示すと、ガンリンでは第十五期生、ジーゼルでは第九期生でいずれも八七・六%です。また、昨年度(第二十一期生)の結果については数字で示さず「良」と評価しておきます。

昨年度から認定試験への対応として、実力試験を実施し弱点分野の指摘とその強化をはかってきました。このことに積極的に参加した学生諸君は合格証書を手にする事ができたと思います。今年度もこのことを充実して行くつもりです。

✓終りに、卒業生諸君の中で残念にも合格証書を手にならなかった方は早い時期に再挑戦し合格の喜びを味わって下さい。必要であれば大学はいつでも卒業生諸君の力になります。

「後世に何を継承すべきか」

学生課課長 井戸 豊

「今の若者の考え方がようわからん」「近頃の学生は……」などよく耳にする。

以前は世間でいう程無節操な若者ばかりではない。そう思っていた。しかし最近その考え方を訂正したくなってきた。

今、中国や韓国では民主化運動(闘争)している。日本の学生はどうだろう。消費税、リクルート問題などで政治・経済が混乱しているにも拘らずこれといった行動をとっていない。馬耳東風といったところである。

「なぜそうなのか」何人かの学生にたずねてみた。いわく、「自分達には直接影響を感じない」「不満には思うが行動を起すまでの危機感がない」と言う。つまりは、身に降る火の粉は払うが他を干渉することもされることも好まないという事である。

確かに彼等の生れ育った環境には、マイルームがあり、ステレオ、ファミコンと遊びを含めた生活の全てが集団的に行動する環境でなくなってきた。

そう言えば思い当る事例がある。一つは、クラブ活動の様変わりである。以前は盛んだった武道系のクラブが衰退し、近頃は仲よしクラブの同好会の台頭が目につく。二つ目は、新入学生の下宿先の決め方である。共同浴場が嫌だからバス・トイレ付の部屋がいいと言う。

今、世界一カネ持ちで、治安が良くて、一番長生きのできる国、日本。経済の急速な発展とともに生活水準も変化し、それに伴い価値観も変わってきている。

しかし「物、カネ」だけで本当の豊かさが追求できるのだろうか。日本の良さ、日本人の良さとは一体何んだったのだろうか。

大和魂とまでは言わないが、日本人の持つ協調性、勤勉性などは世界に誇れる立派な財産であると思う。

一人の大人として、親として又、教育に携わる者として今一度、後世に何を継承すべきか、論議を深める時期にきていると思う。次代を担う若者達のために。

恩師からのメッセージ

藪 下 学

『中日本自動車短期大学の思い出』
中日本自動車短期大学が開学に向け学生受入れ準備の忙しい日々の中、創生期時代であった昭和四十二年四月より奉職以来二十一年で定年を迎へその後委嘱契約で一年在職し、合せて二十二年度の長きに渡り皆様方のお世話になり、そして委嘱契約任期満了の平成元年三月末日を以って退職いたしました。

昭和六十三年三月末日の定年を迎へた折には、学友会より記念品を戴き有難うございました。この紙面をお借りしまして厚く御礼申し上げます。

私の人生は昭和の時代とその激動と共にあって実に波乱に満ちたものであり、その中で中日本自動車短大での生活は三分の一を占めております。原野、耕地であった所が開発され「南国ムード的な学舎」と報道された開学当時と比べなんと現在の立派な近代的キャンパスへの変遷ぶり、これを眺望した時、二十数年という時の流れの重みを彷彿と感ずります。

そして大学設置を思い付かれた

創設者の英断と苦心は事の如何を問わず誠に偉大と賞賛せざるを得ません。

中日本自動車短大は設立以来果立った学生は一万余人、教職員は常時約百人と数の上だけでも中部地区に於ける教学的立場は大きなものであり、さらに二十一世紀に向けて日本の、否世界人的資源の開発、人間形成への大きな役割を担うのではないかと思えます。

その陰には学友会の方々の真に生活と取り組んだ所の、個々のそれぞれの企業でのたゆまぬ研究と努力の成果が実を結び、今日の中日本自動車短大の繁栄を保持し、発展の推力となっておられると思考します。開学当時の学友会の皆様方、本当にご苦労様でした。母校の礎石として頑張られた事心より敬意を表します。

小さな根性は捨て、世界は一つであります。進歩を望む民族は常に何か意欲が漲っております。

私も学生課と、図書館での二二年間の短大生活で得ました貴重な体験を今後の人生々活への大きな糧としたいと感奮しております。

最後に、中日本自動車短期大学の方々、同短期大学学友会の益々の発展と役員の皆様始めご一同様

のご精進とご健康を心より祈念申し上げます。

『お元気でですか』

河井 和彦

お父さんと呼ばれてる人、お母さんになった人、新婚さん、恋愛中の人、只今募集中の人、いろいろな多忙な毎日を送っている一万一千有余名の卒業生の皆さん、『お元気でですか』

夏はサウナで冬は冷蔵庫と言われた中日本名物の実習棟で真剣に自動車に取り組んで行かれた皆さん如何お過ごしでしょうか？ぜひ近況をお伺いしたいものと願っております。

自動車関係業界で、また他の業界で活躍していらっしゃる皆さん、仕事のこと家庭のこと、本当に多忙な毎日をお過ごしのことと存じます。

でも、忙しさに紛れ健康管理を怠って居ませんか？

日々の激務を熟せられるのも健康であればこそです。『実感として生きている』

と言える毎日を送って頂きますようお願いいたします。

実習棟も近代的に建替り大変貌を遂げ、昔とは別の意味で名物と

なっていくこと、思っております。十月の大学祭には、ぜひ皆さんご家族連れ、お友達連れでのこ来学を心待ちしております。

吉田 豊彦

学友会の皆さんこんにちは、短大を卒業され自動車関係はもとより、各分野で御活躍のことと思います。また学友会を通じ広く交流も行われ、各県での支部の設立もあり、益々の組織の発展を期待しています。

さて、二年生も、就職活動が始まり、卒業生諸兄の元へ、御指導を仰ぐと思えますがその節はよろしく御願いたします。特に二級整備士の認定試験の取り組みなど、経験を踏まえ御指導下されば有難いと思えます。

私の所属は実習室で、御承知のごとく、学友会及び各関係者の御努力により、昨年十月には、実習棟全棟完成し、開学当時の実習棟は、すべて姿を消し、夏の暑さの実習、冬の寒さの実習も思い出となり、寂しいような気もしますが、

新実習棟は、二棟が二階建てで、設備も充実しました。また各メーカーの新しい教材の寄贈もあり、今後の実習教育及び技術向上に対応す

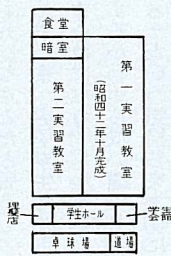
実習棟の今昔

母校の実習棟が一新し、今年度の四月から、その実習棟において授業が、開始されました。

母校を卒業されたOBの方々とは違ったイメージの実習棟で、現在実習授業が、行なわれています。実習棟の完成ということで、一層活気に満ち、又大きく発展したことに、喜びのこともあります。

そこで「実習棟の今昔」について、ふれてみたいと思います。母校が、設立されたのは、昭和四十二年三月です。図のように、

最初の実習棟として、第一実習教室と第二実習教室が、設置されま



後に、第一実習教室が、五号館 第二実習教室が、四号館と呼ばれました。



資料を、調べてみますと、一九六八年(昭和四十三年五月二十日現在)では、四号館が、二、〇〇九㎡。五号館が、三、二〇一㎡の広さがありました。昭和四十五年には、五号館が、四、一〇一㎡へと、増設されています。

その後変化はみられず昭和五十九年には、車体整備コースが開設され、教育内容は、車体構造、材料、計測、修正法、溶接および塗装などが、実施されていて、電気機械コース、自動車工學コースが、開設されました。

思い出の三幸飯店



昭和四十七年九月二十日当三幸飯店が開店して早や今年で十七年目に入ります。当初はこんなに長く続けて行かれるとは思っても見ませんでした。在学中は当店を御利用下さいまして誠に有りがとうございました。当店が現在有りますのも皆様方のおかげだと深く感

一九八七年四月に、第二十回開学記念日を、迎えその年の八月に、四号館(実習棟)が、完成しました。現在は、自動車検査の実習として、使用しています。
一九八八年三月には、六号館、七号館が、完成し、六号館では、ガソリンエンジンとシャシ実習が、七号館は、ジーゼルエンジンと基本工作実習が、実施されています。

同年の十一月には、五号館が、完成されこの建物は、二階建て、現在一階では、特殊装置と燃料装置の実習が、実施されていて、この一階には、研修室と、分教場、二階には、会議室、技術センター等が、設置されています。
現在は、これらの新実習棟で、実習授業が、今まで以上に充実した形で実施されています。

謝しております。その頃、二十才だった人も、もうおじん、おばんいや失礼!もう社会の中堅責任者として立派に頑張っておられる事と思います。さてその当時の学生気質と今とは当然違います。今思えば学生ももう一人前の大人であったと思います。と言う事は何事に対しても甘えがなく責任感に満ちあふれ行動力、考え方、それなりの学校に対しての反発力、生活力どれを取ってもハングリーな面が強かったと思います。現在はやはり子供が少ない家族構成上、甘えが有りなるとはなしに学生生活を通じて行く一過性要素が強く見受けられます。特にクラブ活動がひと頃に比べ活発ではないように見受けられます。練習の大きな声が聞こえて来ません。淋しい

限りです。これも時代の流れですね。こうして思い出して見ますと卒業生の皆様のなつかしいお顔が浮かんで来ます。
近くに来られませんでしたら是非寄って見て下さい。青春の日々が甦りタイムスリップしますよ。

まだまだ当店は、皆様の思い出の三幸飯店として二代、三代と続けて行くつもりです。ではお元気で、皆様方の御成功と御幸せをお祈りして居ります。

三幸飯店一同より

在 学 生

今回は、現在々々中の、一年生二名と、二年生二名に登場してもらい、本学に対する感想、学生生活、将来についてレポートしてみました。



松田さえ子 (一年)
愛知県 尾北高校出身

小さな時から夢はたくさん持っていました。が、「整備士になる」という夢だけは捨て切れずこの学校を選びました。ただ単に「車が好き」という理由で本学を選んだのは単純すぎたかもしれません。

しかし興味を持つという事は、最も大切なことだと思われ、それがたまたま、男子学生に囲まれて油まみれになり、しかも本当に成功するかわからない道でも「車が好き」という気持ちを大切にしたいと思っていました。

入学して三ヶ月が過ぎ大変さが身にしみてわかってきました。と同時に「男子生徒に負けてたまるか」という負けん気もいっそう強くなり、四名しかいない女子学生と励ましあってがんばっています。実際エンジンにふれて毎日を過ごすうちにどんどん車が好きになってきています。足手まといとは思いますが、大好きな車のために努力していきたいと思っています。



三浦由佳 (一年)
愛知県愛知教育大学附属高校出身

私はこの学校にまだ慣れていない頃、女ということをしごく意識して、「女だからといってばかりにされないようにがんばらなければ。」と思っていました。男の子にちょっとでも何か助けてもらおうと自分が情けなく思えました。あるとき友達に私は実習の授業になると恐くなると言われ、自分がどれだけ

気をはっていたのか気づきました。今はこの学校に慣れ、私の考え方もちょっと変わりました。私はどんなにがんばっても女に変わりがないのだから、男子学生とは体力も違うし色々な点でも、違いますが短所もあり長所だってあるのです。できないことは素直に助けをもらい、私でもできることは積極的にやっていたいと思います。今では男子学生の友達もたくさんできて学校生活が楽しくなってきました。そして、この学校を卒業したら国家二級整備士の資格を取り、もちろん車関係の仕事につきたいと思っています。



矢口桂子 (二年)
山形県 新庄南高校出身

私がこの学校に入學したばかりの頃は、「どうしてこの大学に来たのか」とか、「将来は女性メカニックになるのか」といったことをよく聞かれました。その時私にははっきりした目標もなく、ただ漠然と、車関係の仕事につきたいとしか思っていませんでした。それに、将来は整備士になるという自信もなかったもので、そのような質問には答えにくいものがあり

ました。

将来の目標がおぼつかないまま
過ごしましたが、一年たった現在
では、ようやく自分のやりたいこ
とや、目指すものがはっきりして
きたと思います。就職がせまっ
てきて、自分の考えをまとめざる
を得なかったということもあります
が、それよりも、先生や今は男性
といっしょに整備の仕事をして
いる先輩の経験談が励ましとなっ
て、私が整備士になれるだろうかとい
う不安を打ち砕いてくれたおかげ
だと思います。

将来は、男性と同等の、それ以
上の整備士になって、がんばって
いきたいと思っています。



林 邦 修
(二年)
滋賀県
彦根東高校出身

私が本学に入学したのは、以前
働いていたオートバイ販売店のチー
フメカニックの人が本学の卒業生
で、しかも整備技術を修得した
と言ったところ、その先輩にこの
学校を紹介して頂き、それに母も
賛同してくれもう一度やり直して
みようと思ったからでした。

しかし、高校卒業後、学問の道
から長く離れていたので不安もあ

りましたし、入学後間もなく母が
亡くなるという不幸にも見舞われ
一時は何も手に付かず、気持ちも
ひどく落ち込んでいました。しか
し良き友人、先輩、先生方に恵ま
れ、又、学校の設備も充実してい
ましたので、自分でびっくりする
ような好成績を修める事ができ、
今は亡き母も喜んでる事でしょ
う。そして結果として、特待生に
採用して頂く事もでき、本学に入
学した事を心からうれしく思っ
ています。

今後は、希望するところに就職
する事、又、二級整備士資格を取
得する事を目標に置いて、更に技
術の修得や勉学に頑張っていこう
と思っています。

O B 近況

住友海上損書調査(株)
一九八八年三月卒

西本 和 信 さん

今、アジャスターとしての

第一歩を

中日本に入って驚いたのは、自
動車の持つ奥の深さであり、それ
らは十分に僕の興味を満たして
くれるものでした。卒業、就職して

一年経過。この四月からは、正式
に技術アジャスターとして職務に
就いています。僕も、一日も早く
一人前になるよう頑張りま
す！

日本アウダテックス(株)
一九八七年三月卒

田 中 成 和 さん

充実した二年間が

現在を支える

整備士に憧れ中日本に進みまし
たが、現在フロントマンやアジャ
スターを支援する道を歩んでいま
す。中日本での学習が役立つ上、
多くのOBと間接的に関わる今の
会社を選んでよかったと思ってい
ます。大学時代は、仲間、下宿の
おばさん、先生方のおかげで充実
した二年間でした。後輩の方も、
広い視野で自動車業界を見、まず
基礎をしっかりと身につけてくだ
さい。

日産自動車(株)
一九八七年三月卒

青 柳 保 治 さん

開発実験の

仕事に満足

現在は、車両台排ガス性能シャ
シダイナモ実験室で、排ガスの性
能やエンジン制御の開発実験に取
り組んでいます。実際にやってい
て思うのは中日本での基礎教育は
しっかりしたものだということ。
やはり何事も基礎が肝心。
他に数学・英語といった一般教
養も役立っています。今後は、外
国出張も考えられるので、英語も
さらに勉強しなければ、と思っ
ています。

愛知トヨタ自動車(株)
一九八七年三月卒

小 松 充 さん

プロを目指して！

六ヶ月点検、十二ヶ月点検、車

通 信 欄

学友会名簿作成委員の中に同期
生の名前をみつけ当時(S四十五
年・四十六年)の回想にふけて
います。私達の学舎が今後も更に
経済社会のニーズにあった方向で
発展することを祈ってやみません！
691014
片 平 俊 昭

S六十一年にトヨタ検定の二級
に合格し、サービスのメカニック
の中心として頑張っております。
780735
中 嶋 保 夫

私は、現在兵庫日産姫路サービ
スセンターでフロントマンをして
いますがやっと日産一級フロント
マンに合格しました。兵庫県人会
の西側先生によりしくお伝え下さ
い。会報に出ていた女子学生諸君
も頑張ってください。中日本出身の
女性メカニックが我社に一人いま
した！
800740
西 井 幸 博

六十二年三月末、日産プリンス
千葉販売(株)退社しました。在職中

日産プリンス技能コンテスト全国優勝しました。中日本自動車短期大学で学んで来た事がすべて発揮出来ました。厚くお礼申し上げます。

791142

宮 負 康 正

在学中はお世話になりました。六十三年七月十三日に日本を離れまして、現在オーストラリアのシドニーにいます。一年間の予定で国際人として、国際交流を目ざして行っています。 母より

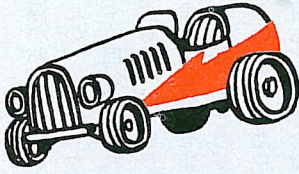
850309

植 田 善 隆

一月六日より二年間青年海外協力隊にて、アフリカのニジェールに整備士として行っています。

810922

近 藤 文 彦



20周年記念

会員名簿

のお知らせ

私達の校友会もすでに発足以来二十年を過ぎ、会員数は一万名を優にこえ、全国各地でご活躍のこととおもいます。そこで、かねてよりご連絡いたしておりましたが一期から二十期生まで対象とした『二十周年記念会員名簿』が完成致しましたのでご連絡致します。尚価格におきましては、前回のご案内で、予価四〇〇〇円とお知らせ致しましたが、努力の結果役員会において、送料込み三〇〇〇円



となりましたので訂正しお知らせ致します。購入希望の方は、同封の振り込み用紙をご利用ください。尚名簿委員会では、毎年会報を通じ、会員の皆様の住所、勤務先等の変更に対応すべく努力していますが、宛先不明で毎年返送される数も多いです。住所等変更の生じた場合は整理番号(わからない場合は学生番号、卒業年度、クラス等分かる範囲)を記入して同封の返信ハガキにて校友会事務局までお知らせください。

代議員総会 開催のお知らせ

平成一年度代議員総会を、左記にて行います。代議員各位はかならずご出席下さいますようお願い致します。また、一般学友会員(卒業生)のオブザーバ参加も大いに歓迎しますので、ふるってご参加下さい。

名称 中日本自動車短期大学

学友会

平成一年度代議員総会
日時 平成一年十月十五日(日)
午前十時〜十二時三十分

会場 中日本自動車短期大学
第一会議室

議題 一、昭和六二・六三年度
事業報告

- 一、会計報告
- 一、役員改選
- 一、平成一年度事業計画
- 一、その他

代議員改選の告示

一九八八年度の代議員改選を実施します。学友会活動に興味・関心のある方で積極的参加が期待できる人を左記要領で推薦下さい。

記

推薦期間 一九八九年八月十五日

〜九月十六日まで

推薦受付 学友会事務局又は
学内代議員

尚、詳細については学友会事務局
(TEL)〇五七四一・二六一七二
(一)までお尋ね下さい。

担当者(岡田)

編集後記

本年は、昭和の幕を閉じ平成という新たな年代を迎え、スタートした年であります。我が中日本自動車短期大においてはここ数年国際化の兆しを感じられます。国際協力事業団を通してのマレーシア・フィリピン等東南アジア諸国政府派遣による技術研修生、及び中華人民共和国汽車(自動車)工業連合会管轄の武漢工学院・湖北汽車工業学院からの研修生受入れ、学生対象のハワイ研修及び例年通り留学生受入れと数多い。その中でも、研修生受け入れにおいて、本学の自動車技術教育は、海外の自動車関係団体からも高い評価を受けております。

新実習棟完成とともに、おかげ様で、学友会会報も第八号を発刊することが出来ました。

発行にあたりまして、御協力いただいた皆様方に心より厚く御礼を申し上げます。母校の発展と学友会々員の皆様のご活躍を祈念して編集後記とします。